

KITAMIオンライン展示の取組み：北見 松坂

【環境醸成/実際生活に即する】

だれでも、いつでも、どこでも関わる事ができるのか

「いつでも、どこでも、気軽」の事業目的のとおり出品者側も、閲覧者側も見出すことができる

【必要な学習機会の提供/奨励】

住民の主体性/ニーズを捉えているか

・若い人の参加→見ることができた→自分も出してみようかな→新しく作ったり、やってみたい→学習機会の提供へ

【コミュニティづくり】

新しい関係が生まれたか

・孫、子に作品を見てもらえた→活動のモチベアップ
・個人（20～30代）が出品増えた（オンラインの強み）みたい作品をスクロールすることで、色々な作品を見て、自分も出してみたい意欲
・関係者でない人からの「今年もオンラインあるの？」と問合せ→事業を楽しみにしている

職員の関わり方（特記すべき点）

・初年度、行政からの提案であったものの、団体も主体的に事業運営に協力してくれた→初めの働きかけはとても良く、成功事例といえる
・住民ニーズに応えるため団体への介入が大きくなっている

課題/改善

理想→各団体が自分でアップロードできるようになれば運営側も楽。SDGs 持続可能な事業に見る側の支援（スマホの使い方など）団体の誰か1人でも分かる人がいれば広がる
→出品者も見方がわかればなお良い→私の見てよと口コミで助けられる

B
O
B
新
聞

発行者

寺田
高橋

佐々木